



▲伝馬町屋台を中心に集う人々  
 ◀うちわを降らせてみこしを活気付ける



この付近は、元和5年（1619年）、宇都宮城主・本多正純による城の大改修の時に、問屋場（人馬や駕籠などを用意して旅人の便宜を図ったところ）がここに移転されました。また、日光街道と奥州街道の分岐点に当たり、荷を運ぶ人馬（伝馬）が備えられていたことから、この町の名が生まれました。町内には、大名などが泊まる本陣をはじめ、たくさん宿が軒を並べ、城下では最もにぎやかなところでした。

伝馬町には代々、屋台がなく、町内の和や絆という目には見えないけれど大切な生活文化を、次の代、またその次の代へと継承していきけるようにすることが、私たちの努めだと思っています。

受け継がれています。この伝馬町屋台は、屋根には金の竜が乗り、周りには鳳凰や獅子、カニなど絢爛・緻密で遊び心ある彫刻が施されており、県の有形文化財に指定されています。現在では、伝馬町は住民が少なくなり、高齢化するなどの悩みもありますが、郊外に引越した人々も、祭事などの町内の行事には戻って来て手伝ってくれますので、町内の和や絆は、とても強いと思います。先人が残してくれた、屋台などの形ある文化だけでなく、町内の和や絆という目には見えないけれど大切な生活文化を、次の代、またその次の代へと継承していきけるようにすることが、私たちの努めだと思っています。



「先生やみんなの協力があつて受賞できたので、とてもうれしいです」と話す坂本真愛さん。第61回統計グラフ全国コンクール第4部（中学生の部）で、8291点の応募の中から、見事1位の特選に輝きました。また、入賞作品の中から問題解決に関する優秀な作品に贈られる「日本品質管理学会賞」にも選ばれました。小さい頃から図やグラフに興味があり、小学校3年生のときに体験学習に参加したことが統計グラフ作成を始めるきっかけでした。今回受賞した作品名は、「中学1年生で急増する諸問題との関連は？考えよう！中1ギャップ」。中学校への進学時に、不登校が増えたり、学習内容定着率が低下したりする現象など、いわゆる「中1ギャップ」をテーマにしました。「どんなこと

今、輝いている市民

「先生やみんなの協力があつて受賞できたので、とてもうれしいです」と話す坂本真愛さん。第61回統計グラフ全国コンクール第4部（中学生の部）で、8291点の応募の中から、見事1位の特選に輝きました。また、入賞作品の中から問題解決に関する優秀な作品に贈られる「日本品質管理学会賞」にも選ばれました。小さい頃から図やグラフに興味があり、小学校3年生のときに体験学習に参加したことが統計グラフ作成を始めるきっかけでした。今回受賞した作品名は、「中学1年生で急増する諸問題との関連は？考えよう！中1ギャップ」。中学校への進学時に、不登校が増えたり、学習内容定着率が低下したりする現象など、いわゆる「中1ギャップ」をテーマにしました。「どんなこと

「統計グラフの知識は、将来役に立つと思います。今後は、栃木県統計グラフコンクールで県知事賞を取りたいです」と、新たな目標に向かって進みます。



一条中学校 坂本 真愛さん



でん まちよう  
**伝馬町**  
 現在の泉町・伝馬町辺り  
 古いまちの呼び名と  
 こぼれ話を紹介します



伝馬町自治会 会長  
 上野 菊雄さん

# はつらつ宮っこ

今、輝いている市民

## 工夫を重ねた統計グラフ 念願の全国一